

屋根に関する豆知識

屋根葺材が飛散するのは風速何メートルから？ → 瞬間風速 20m程度から

気象庁のホームページでは

「瞬間風速 20～30m/s（風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。）程度で屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある」とされ、

「瞬間風速 30～40m/s（何かにつかまっていけないと立っていられない。）程度で屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある」となり、

「瞬間風速 40～50m/s（屋外での行動は極めて危険）程度で固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる」と記載されています。

令和元年房総半島台風（台風 15 号）の風の大きさは？

→ 最大瞬間風速 57.5m/s！

瞬間最大風速は千葉で 57.5 m/s、木更津で 49.0 m/s、館山で 48.8 m/s を記録しました。

建築基準法では風速何メートルに耐えられればよい？ → 38m/s

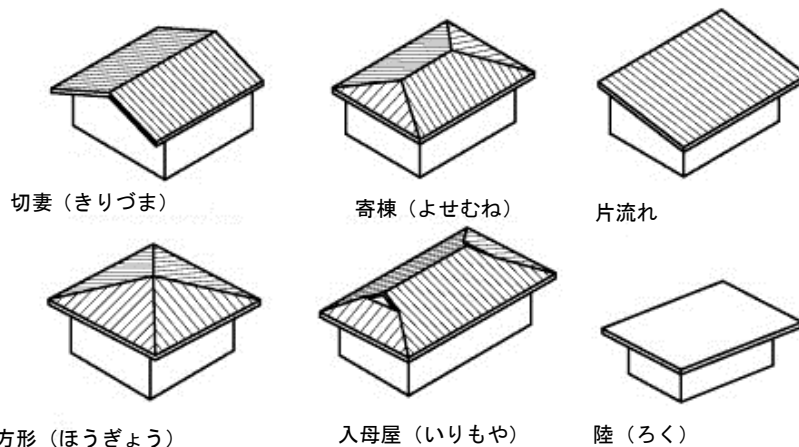
建築基準法では地域ごとに定めている基準となる風速があります。東金市の基準風速は 38m/s です。銚子市や館山市と同じです。

台風に強い屋根形状はどれ？ → ドーム型が一番強い？

屋根の面の数が少ない形状のものほど面で受ける風量が増すため、強風に弱くなります。傾斜が 1 方向にしかなく、屋根が 1 面の片流れが最も風に弱い形状になります。

上部が切妻屋根、下部が寄棟屋根の入母屋や、2 面で構成されるシンプルな切妻も比較的風に弱いとされています。

屋根が 4 面で構成される寄棟、ピラミッド型の方が最も風に強い形状と言われています。理想を言えば、どの方向からの風が吹いても、屋根の特定の面や一部分に力が集中してかかることのないドーム形がよいのですが、一般的ではありません。



== 屋根に上るのは危険です。詳細な点検は専門業者に依頼しましょう。 ==